

玄界灘の小さな入り江に面した浜野浦（佐賀県玄海町）は、海岸から斜面を駆け上がるように幾重の棚田が覆う。戦国時代から江戸時代にかけて築かれ始めた浜野浦の棚田は11・5畝の広さに大小283枚の田んぼが連なり、天候、時刻、季節によって折々の風景を見せる。1999年に農林水産省が「日本の棚田百選」に定めた。

4月下旬から5月上旬にかけてが一番の見ごろだろう。田植え時期の夕刻、水平線に沈んでいく太陽が海

浜野浦の棚田（佐賀県玄海町）

写真・デートの名所



イラスト・広野 司

面と水田を赤く輝かせ、幻想的な光景を映し出す。夏は夜の海にともしさる火が風情を醸す。秋は黄金色

に染まった稲穂と抜けるような青空の鮮やかな対比を生む。刈り取りを終えた冬は田に物悲しさも漂う。

こうした景観を見下ろす国道204号沿いには、展望台や駐車場などが整備されている。特に晩春は多くの写真愛好家が絶景を収めようとカメラを向ける。ロマンチックな情景がデートスポットとしても人気を集めており、NPO法人地域活性化支援センターが選ぶ「恋人の聖地」になっている。

10月には玄海町で「全国棚田（千枚田）サミット」が開かれ、各地から集う参加者が環境保全や農村振興などについて話し合う。玄海町や佐賀県は交流で全国へ情報発信や地域の活性化につなげようと準備を進めている。